

# 本名か通称名か？

——新聞報道における在日コリアンの名前表記をめぐる本質主義と社会構築主義——

東洋大学 井沢（金）泰樹（泰泳）

## 【1. 目的】

報道における在日コリアンの本名と通称名、その議論 在日コリアンの多くは通称名で生活している。在日コリアンにおける通称名とは日常生活で使用している日本名であり、本名とは在日コリアンの民族名である韓国・朝鮮名である。ある事件が起こり、在日コリアンが容疑者となった場合、名前を本名か通称名かどちらで報道するかという対応は各新聞社によって分かれる。一貫して本名で報道する新聞社もあれば、一貫して通称名で報道する新聞社もある。この報道における名前の表記法についてはその是非をめぐる議論があり、とくに通称名表記については、そのことにより在日コリアンによる犯罪の実態が日本国民に正確に伝わらず、“社会治安上”の観点からも問題であるといったものがある。本研究では、新聞各社への質問紙調査と関係者へのインタビュー調査により、この新聞報道をめぐる実状と背景にある本質主義と社会構築主義の相克について明らかにするものである。

## 【2. 方法】

朝日・毎日・読売・産経新聞各社への質問紙調査と 新聞記者および在日コリアン民族団体関係者へのインタビュー調査 筆者は、朝日・毎日・読売・産経新聞各社における表記の違いは、どのような基準の違いによっておこなわれているのか、各紙にアンケート調査をおこなった。また本研究ではそれと併せて、批判の対象となっている朝日新聞社の社員から、どのような意思をもって「通称名表記」をおこなっているのか、また、在日コリアン当事者はこの問題をどのように捉えているのかということのインタビュー調査をおこなった。

## 【3. 結果】

その結果、産経新聞と読売新聞は、「原則は本名報道」という回答であった。また毎日新聞社は「ケースバイケース」。そして朝日新聞は、「日本社会での差別・偏見の事情を総合的に判断し通称名で表記している」という回答であった。また、民族団体の機関誌の編集長を務める韓国籍の男性（40代）は、「朝日新聞の通称名表記はダブルスタンダードに思える」と否定的であり、また、ある民族団体で活動する日本籍の女性（30代）は、「朝日新聞の対応に賛同したい」という意見であった。調査の結果から、メディアの対応も、そこで働く人の考えも、また在日コリアン当事者の考えも多様であるということが明らかになった。

## 【4. 結論】

「通称名表記」を非とする主張は、在日コリアンを、「いつ何をしでかすかわからない犯罪者予備軍」と捉える人種主義にもとづくものと言わざるをえない。一方、「通称名表記」を是とする主張は、そうした人種主義を退けて、「犯罪」の背景にある差別などの社会構築的要因を考慮しようとするものであるといえる。しかし、通称名表記を実践する人びとも、自らの選択に100%の自信を持っているわけではなく、ジレンマと葛藤をかかえながら日々の報道活動をおこなっているのである。またマイノリティ当事者も一枚岩ではなく、その意見は多様であるということが明らかとなった。つまりこの問題は、報道における本質主義と社会構築主義の相克が背景にあるといえ、本研究では、そうした相克の実像、また表記方法の妥当性について論じていきたい。